

JAITI 19

Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation

JAITIとは、「財団法人日本農業研修場協力団」の英文、Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundationの頭文字の略で「ジャイチ」と呼びます。1989年、農業を生活基盤とする、開発途上国の農村地域社会の人々が、「生きる根幹」の食料を安定確保することで、生活の中に基礎的な教育と公衆衛生に目を向けるゆとりを持ち、健康で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願って、活動が展開されています。

発行 (財) 日本農業研修場協力団
住所 〒386-0502 長野県小原郡武石村沖456
TEL 0268-85-3465 FAX 0268-85-3583

パシユパント学校へ電気を

今なら村との共同作業で電気が
引き込めます。「ご協力下さい。」

現在パシユパント学校には電気が入っていません。この学校に通っている生徒達が居住している、学校の北方地区シンパンジャンやタマンには、三年前に電気が入り、南方のジルガリやアポール地区にも、年内に入る予定で工事が始まっています。

この送電線の途中で分電を受ければ、三十五本の電柱を建て、二キロの距離を張ることで学校に電気が入ります。

日本で生活していると、

この時代背景は、当然学



▲パシユパント学校全景。真中が運動場。時計回りにみすずホール・事務所・食堂と厨房、教員宿舎群。

電気引込工事費内訳

(2000年6月現在)

1. 外線用電柱工事費332,500円
35本 1本当り単価9,500円
 2. 外線張り工事費280,000円
2,000m 1m当り単価140円
 3. 校内配線工事費225,500円
410m 1m当り単価550円
 4. 建物室内工事費377,000円
 - ① 事務所72,000円
 - ② みすずホール90,000円
 - ③ 食堂・厨房63,000円
 - ④ 教員宿舎152,000円
(8戸×1戸当り単価19,000円)
- 合計1,215,000円

校教育の現場でも、実態として、認識として電気を必要としますし、校内に居住する教職員にとっても、最先に備えが欲しい大切な部分です。

しかし、必要性は充分分かっているにもかかわらず、今迄は電気が余りにも遠く、到達地区が余りにも遠く、その地点からの電気引き込み工事は、ジャイチ単独で莫大な費用を掛けなければならなかった為、引き込みを見送る、替りに、事務所・食堂・教員宿舎に、ソーラー発電による五W電光燈一灯の、しかも、日照時間バッテリー容量の関係から、一日平均四、五時間位しか照明できない範囲の設備で

此の度、電気会社、村当局と相談した結果、今なら新規工事費でなく、追加工事として、又、国の重要施設の一つである学校教育の現場であることも加味して、別表の工事費用で、幹線から学校迄の電気引き込みと、各建物への配線と機具取付が可能との回答を得ました。

早速工事資金の手当をするために、何件かの助成金交付申請を試みましたが、残念ながら断念を余りも得るには到りませんでした。

しかし、必要性は充分分かっているにもかかわらず、今迄は電気が余りにも遠く、到達地区が余りにも遠く、その地点からの電気引き込み工事は、ジャイチ単独で莫大な費用を掛けなければならなかった為、引き込みを見送る、替りに、事務所・食堂・教員宿舎に、ソーラー発電による五W電光燈一灯の、しかも、日照時間バッテリー容量の関係から、一日平均四、五時間位しか照明できない範囲の設備で

この適用を外し度くありません。次の機会を持つのは、良いとは思えません。そこで、年二回お届けしている「JAITI」の四頁に担当掲載している「ご寄附のお願い」の第三項、「新

たに大きい費用のかかる事業を計画した時に、その応援費用として確保することを目指すとしている「ジャイチ事業費での募金を、初めてお願ひすることになりました。現状をご理解下さり、皆様の皆様で、パシユパント学校へ電気を通して下さい。」

ご協力いただく金額に關しましては、「一口何円」的に決めることは致しませんから、「外線用電柱一本分・外線用メートル分・校内配線メートル分・事務所・室内電気工事の一部として、同様に、みすずホール、食堂と厨房の、教員宿舎の室内電気工事の一部として」的な型で、ご指定下さっても構いませんし、「学校の電気引き込み費」とだけ、ご指定下さっても結構です。

どうぞ、ご賛同下さいませ。同封込込票用紙の通信欄に、使途指定事項をメモ書きいただくか、通信欄右側に印刷してある「一口指定事業への寄附金」の□に印をして下さい。

皆様方のご支援で、パシユパント学校の校門上に、事務所入口に、常夜灯の明りが灯り、外が暗くなると教員宿舎の窓々に、電灯の輝きが付くことを願っています。

(事務局・備池)

シャイネパール、マン、シュレストー(文責・菊池)

ネパール情報

十五、十七号の続きで、投資に關することです。

(4) 水資源利用事業

水はネパールの最も重要な天然資源で、約六千の河川があり、年間国内で継続的に提供可能水量は、一州郡につき約九千立方メートルです。

主な河川は、コシ盆地に七、ガンダキ盆地に七、カルナリ盆地に五本あります。全平均雨量は千七百立方メートルと見込まれ、潜在的な水力発電力は八二千MWで、その五十％は経済的利用が可能であるが、現在迄に、

○、五％のみが利用されているに過ぎない。

ネパールで生み出される電気は、インド向けとしてすでに市場を持っており、最近の調査結果ネパールの水力電気会社は、インドの顧客へ直接販売することが認められた。

一九九二年、水力電気開発制作が動き出したことにより、すべての水力電気会社が発電可能性を持つ地域は、ネパール国内外からの民間企業の単独投資に対して、開放されています。

是迄の政府単一か、国内外民間企業との合併事業の義務付けが無くなったことは、投資家に朗報です。

シャイネパール、マン、シュレストー(文責・菊池)

今日のジャイチ

前期の事業と収支報告、
今期の事業予定と予算、投
員改選報告を致します。

◆第八期事業・収支報告

一九九九年四月一日から二
〇〇〇年三月三十一日まで。

パシュバント学校へ、第
九教室、第四教室宿舎の建
設、二一〇名の生徒に対し
て、給食・教材を含む無償
教育、吉林大宇チームによ
る寄生虫コントロール事業
〔詳細は次頁〕、カカニ農場
へ、白立運営指導目的で菊
池高専理事を二回派遣、カ
トマンドラ事務局へコンピ
ューターを導入し、日常業
務の合理化と日本事務局へ
の連絡にメール使用開始
日本からの主だった視察
関係受入は、恒例のジャイ
チツアー、郵政省現地視察

(財)日本農業研修場協力団収支報告
1999年4月～2000年3月 (単位千円)

1. 収支の部

①基本財産運用収入	294
②支援者寄附金	8,499
③公的機関よりの寄附金・助成金・ 支援費	6,854
④財団設立者寄附金	3,942
⑤現地研修視察事業収入	3,306
⑥その他の収入	53
⑦前期よりの繰越金	343
合計	23,291

2. 支出の部

①国内事業費	1,945
②国外事業費	11,136
③国内事務局運営費	4,422
④基本財産へ組入れ	3,407
合計	20,910

3. 次期への繰越金

合計	2,381
----	-------

回、日営作業としての情報
提供、武石実用農場、流山
出入国準備室の管理等を実
施しました。

収支は別掲の通りですが、
前述のバザー収益金を含め
支援者寄附金は七〇九件、
公的機関からは、(社)国際
農林業協力協会、郵政省国
際ボランティア貯金、(財)
日本国際協力システムより
受けて事業を実施しました。

◆第九期事業予定・予算

二〇〇〇年四月一日から二
〇〇一年三月三十一日まで。
カカニ農場は、白立運営
二年目の進捗を見守ります。
二年度の進捗を見守ります。
パシュバント学校の施設
整備は、第十教室、第五児童
用便所、第五教員宿舎及び
電気引込(詳細は一面)を致
します。生徒は二四〇名受
入し、吉林大
宇チームによ
る、本土の保
全による寄生
虫コントロール
調査も続け
て実施します。
その他、十
一月のジャイ
チツアー、各
地のバザー、
講演会、機関
誌発行等の日

第5期役員名簿

(平成12年4月1日～14年3月31日)

理事長	室賀 弥三郎	長野県上田市(再任)
副理事長	小林 栄	東京都文京区(再任)
常務理事	菊池 健介	長野県武石村(再任)
理事	猪爪 龍子	東京都渋谷区(再任)
理事	北澤 貞利	長野県長門町(新任)
理事	島田 基正	長野県上田市(再任)
理事	下村 崇	長野県丸子町(再任)
理事	下村 聖	長野県武石村(新任)
理事	高橋 武光	東京都文京区(再任)
理事	寺島 義幸	長野県上田市(再任)
理事	角地 弘行	東京都練馬区(再任)
理事	増澤 忠成	長野県上田市(再任)

常業務は従来通り実施。
活動事業費は、公的機関
を含む各種団体に助成申請
していますが、実態は非常
に厳しいです。皆様の続け
てのご支援をお願いします。
この現状の中、滝社一郎
様(滝和美様の父上)より、
昨年四十四才で他界された。
ご次男、文男様(和美様は
長男)の遺産と寄せられた
香典の一部を、第五教員宿
舎建設費にと、工事費を上
回る寄附を戴きました。

◆理事・監事改選
任期満了に伴い、三月十
九日開催した評議員会で、
新・再任を含め、引揚に決
まり、同日開催の理事会で、
正・副理事長、常務理事は、
全員再任されました。
(事務局長 菊池)

里親だより
私のネパール

花里 麗 美

ヒマラヤ。「一度は登っ
てみたい。」山の好きな私
は若き頃、ロマンチストに
浸り心が揺らぐ時代があっ
たものです。
この国の名を聞いた時、
何の抵抗も無く心が揺らぐ



アマール・ブダサイニ君

ことが不思議でした。
夫亡き後、三人の子育て
は夢中でした。でも頼られ
しそれぞれに果立ってい
き、気が付いたら夫の両親
と二人暮らし。その様な時
ジャイチの里親制度の話し
を持ってきて下さったの
が、ジャイチに詳しい木内
郁子さんでした。
お金が無くとも、賛成さ
えしなれば生活には困ら
ない日本の中で、心の隙間
は必ず事は出来ません。
人の世の役に立ちたいと
言う心があっても、どの様
な仲間とどの様な活動が出
来るのか等と迷う気持ちが
先走りしていた時だけに、
今回の里親制度を聞き、又
今回の里親制度を聞き、又
ネパールと聞くやいなや、
私の若き頃の夢が自分の中
で生かされると思うと、嬉
しくて早速申込をしまし
た。

男の子を希望しました。
それは主人が一人息子でい
つもとでも淋しいと話して
していたからです。
紹介されたのが、カトマ
ンドラ市に住む、アマール・
ブダサイニ君です。英語で
来るお手紙は、木内さんの
娘さんに訳していただきま
した。お父様からは、「心
から感謝している。必ずネ
パールに来て下さい。」と
その都度書いてあるお手紙
をいただきます。
幼学の方は、一生懸命し

ている様子。クラスで六番
とか。写真も送って下さり、
四年生だったアマール君はあ
れから五年が過ぎて、今は
一段と男らしさの青年の顔
になりました。
再三の「ネパールに来て
下さい。」の言葉には、い
つもほのぼのと感じさせら
れ、いつになつたら夢のネ
パールに行き、ヒマラヤを
見、そしてアマール君に逢え
る事が出来るのだろうか
と、心躍らせている今日こ
の頃です。
私も、来年は定年です。
少しは体に余裕が出来るの
と、食べるのが好きなた
め、農業をして土と楽しん
での作物作りをしなが
ら、夢の実現に向かい頑張っ
て行こうかと思えます。アマ
ール君のように前に向かっ
て進むことが出来たら良いな
アと。
ジャイチの皆様が一生懸
命にネパールの子供達の為
に支援している姿を見るた
びに、親のエゴで子供を駄
目にしてはいる日本のお母様
方、こちらに目を向けて下
さつたなら、少しはお子様
の気持ちが分かって癒える
のではないかと、事件があ
る度に思います。
(長野県佐久市)
花里さんは、里親を始め
て五年です。手紙のやりと
りも順調にあり、良い親子
関係を築かれています。



▲衛生教育、子どもに食べ物の絵を描いてもらう。

バシュパント学校 寄生虫調査 (Ⅲ) (2年間にわたる調査報告)

私たちは一九九八年十月から二〇〇〇年〇三月まで、日産科学振興財団の援助のもと四回にわたるバシュパント学校で寄生虫調査を中心とし、これに衛生教育を加えたプロジェクトを展開してきました。今回二年間の援助期間を終えるにあたり、ご報告申し上げます。わたしたちはこのプロジェクトを短期間で終わらせることは考えておらず、できればあと十八年間は続けさせていただければと考えております。プロジェクトの性格上短期間では効果が期待できず、持続こそバシュパント学校を中心

とした地域保健の確立、公衆衛生概念の普及といったことが成し遂げられるからです。では過去二年計四回の調査について、経過と結果にたざきます。

第一回は、一九九八年十月に行いました。初めてであったためどの程度の寄生虫保有率であるか、見当がつかせませんでした。発電機と顕微鏡を持ち込んだ調査は想像以上に困難で、日没までには終了せず夜になっても薄暗い電気のもとで続けられました。なれない生活のこととあって、カトマンスに帰ったあと、ネパール人スタッフがせっかくだからカトマンス観光でもという言葉をふりきって帰国しました。検査結果は、約六十%の児童が何らかの寄生虫に感染していました。いくつかの報告では、開発途上国での寄生虫感染率は九十%にも昇るといふことがありましたので、比較的衛生状態が良好なのではとも考えました。治療としてマストリートメントいわゆる抗寄生虫薬を全員に寄生虫の有無に関わらず投与する方法をとるか、あるいは虫卵陽性者のみにターゲットを絞って治療する、という二つの選択肢がありました。せっかくな検査をしたこ

ともであり、薬による有害作用も考慮し、陽性者のみに治療を行いました。それまではジェイチによって年に二回マストリートメントが行われていました。これがあつて重要な意味を持っていることに、このときは気がつきませんでした。

また衛生教育に紙芝居を用いた手洗いの重要性を教えました。

その後第二回調査を、一九九九年五月に行いました。五月はモンスーンの前の季節であるため雨が少なく、十日には見えたヒマラヤの山々もほとんど見ることができませんでした。前回と同じように検査を行ったところ、陽性率が七十%に増加していました。その時点で十一月という乾季と五月という雨期の前では、感染率が異なっているであろうと推測しました。治療はターゲットを絞って実施し、衛生教育は、スライド映写機を用いて一般的な寄生虫について話し、どのようにして予防するかという話しをしました。児童達は初めてみるスライドに驚き、また最後に見せた日本のスライドを見て、海と船にどよめきが起きました。二回目ではありましたが、まだ児童は本当の意味で私たちに慣れてはあらず、少し距離があるように感じられました。

第三回目の訪問は、一九九九年十月となり、二回目を重ねたためか、児童との距離は縮まったと思われました。しかし寄生虫感染率は予想に反して、つまり前回調査時の感染率増加が、季節変動によるものと考えていた私たちは、感染率八十%という数字に呆然としました。やはり予想以上に衛生状態が悪く、治療後の再感染が速かつたということを思い知らされました。しかも、おそらく検査では発見されなかった寄生虫を持つ児童がおり、さらに陽性率を上げてしまった可能性が示唆される結果となつてしまいました。これでは何のために来ているのかわかりません。衛生教育が成果を示すには時間がかります。それよりもまずは治療をという考えの基に、マストリートメントに方向転換し、全員に駆虫薬を飲んでもらいました。明らかに有害作用もなく終了しました。

衛生教育は、再びスライドを用いて手洗いや衣服を、寝具を清潔に保つことの重要性について話しました。児童の反応は非常によく、しかも私たちの距離はさらに縮まり、話しかけても恥ずかしがらずに返事をすやつと、ここのパイプが繋がらつたという印象で、衛生率は増えました。信頼感は深まりました。

第四回訪問は、二〇〇〇年三月に行いました。予算の関係と今までの衛生教育にかける時間が短かつたこと、児童が参加する機会が少なかつたことを考え、寄生虫調査なしの衛生教育のみプログラムとしました。もちろんマストリートメントは行いました。衛生教育は、栄養について各クラス別に行いました。蛋白質や糖質をどのような食べ物が含んでいるのか、どういふ食べ方が良いのか等について、直接児童に食べ物の絵をかいてもらうという方式で行いました。反応はとて



▲春木先生、寄生虫と野菜の関係についてのお話

もよく、たのしみながら勉強しようとした。しかし今後寄生虫の再調査が必要で、つまりマストリートメントの結果、以前のよう四十%前後に感染率が低下するかどうかです。

六月に訪問を予定していましたが、予算の関係で断念せざるを得ない状況となつてしまったことは残念です。しかし協力者であるジーン先生が、代わりに衛生教育とマストリートメントを行ってくださることになっています。秋にはかならず再び学校を訪ねて、寄生虫調査と衛生教育をおこなうつもりになっています。今回あたらしく BISHLE (Bashant Integrated School Health Education Lasting Program) という長い名前の衛生教育プログラム構想を準備しました。ビスはネパール語で二十を意味し、ヘルプは助けです。過去二年を含め将来十八年、合計二十年かけてバシュパント学校の児童、教員と一緒に、勉強させていたいただきたく考えております。最後にジェイチスタッフとその支援者の方々、バシュパント学校の児童、教員の皆様、それに二年前にわたってご援助頂いた日産科学振興財団に感謝致します。

第十一回 ネバールの農場と 学校訪問の旅参加者募集

今年も実施します。

◆日程 十一月十一日(日)～
十九日(日)七泊八日

◆旅程 関西空港からの直
行便で同日カトマンドウ着。
翌日よりダマナンパシネ
バント学校・チトワン国立
公園・ボカラ(ミニトレッ
キング)・カカニ農場・カ
トマンドウと移動します。
十九日カトマンドウより関
西空港へ戻り。

◆費用 二十七万円。全て
の旅費、宿泊費、食事が
含まれています。この他の
必要費用は、関西空港往復

の日本国内交通費と、海外
旅行傷害保険料だけです。

◆参加条件 一・二時制散
歩が可能な方。

◆申込期限 八月二十五日
(金) 定員になり次第締切。

◆募集要項、問い合わせの
申し込み先

千三六六〇五〇二
長野県小県郡武石村沖四五
六 ジヤイチ事務局 豊田
四〇二六八(八五)三四六五
四〇二六八(八五)三五八三

☆ジヤイチの企画で案内し
ますが、旅行会社のバック
ツアーではありません。

縫製工場から出た端切れ
を使って、ネバールの子ど
もたちの通学用バッグを作
ってくれないかと頼まれま
した。今から、六年ほど前
のことです。

縫い物は好きでしたが、
なにしろ寄る年波、手前を
していない片目

の白内障が進み、
こまかな手仕事
はもう無理。ち
よっと困ったと思った覚
えがあります。

でも、楽しみながらのゆ
っくりペースでいいという
お言葉でしたし、他に作る
方もいらっしやるというこ
とでしたので、肩肘はらず、
マイペースでならお引き

受けしました。

ネバールのことは、二〇
年前の夏府のお祝い旅行で
三週間ほど滞在したことが
あるので、少しは知ってい
ます。エベレストビューホ
テルからみた青く光る山々
の美しさ、着物にもんべ姿

の私を氣遣って差し出され
る、山の人々の手の暖かさ
がめづらしくて、触りに
集まって来る子どもたちの
好奇心に光る眼差しも忘れ
られません。

バッグは、通算すると二
百個は作ったでしょうか。

受けていました。

元氣あふれる子どもたちが
使うのですから、丈夫であ
ること、使って楽しく、作
って楽しいことを大事にし
ました。

厚手でしっかりした縫製
工場の端切れをパッチワ
ク風につないで本体にし、

表にお店で買ったかわい
いプリント模様の布を袋を付
けました。孫に、鯉やいる
かの絵を書いてもらったこ
ともあります。

バッグづくりで一番の難
関は、袋の口を締まえるボ
タン探しです。大きめのボ

タンを探して、大きめのボ

タンを探して、大きめのボ

タンを探して、大きめのボ

タンを探して、大きめのボ

タンを探して、大きめのボ

タンを探して、大きめのボ

タンを探して、大きめのボ

タンを探して、大きめのボ

古切手を これから

ご協力をお願いして一年
半、この半年間にも大勢の
方から送付戴き有難うござ
いました。

本来ならば、受領の都度
お礼を差し出さなければい
けないのですが、事務局か
らの意向もあって、広報紙
「JAITEE」のご支援者名
簿の◆寄附品欄に、お名前
を掲載させて頂いて、受取
り通知と致しました。ご容
赦下さい。是からもずっと集
め続けたい。ご協力下さい。

送付先 〒一五八〇〇八四
世田谷区東玉川一十二〇

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

安藤 雅子

ご寄附のお願い

ジャイチの活動を何時も心に留めて下さり、感謝申し上げます。
運営されている財源その他について説明を致します。ご協力をお願い申し上げます。

1. ジャイチ基金……財団法人ジャイチの基本的財源の確保
基金を信託銀行・国債等で運用し、その果実(利息)でジャイチ活動の基本部分
を確保することを目的としています。果実のようなものです。
・基金が大きくなればなるほどジャイチの財源が安定します。
・基金へ寄附して頂いたお金は何十年何百年あともジャイチと共に苦味の花
が咲きます。
2. ジャイチ維持費……ジャイチの運営維持費
基金から生み出される財源では只今のところ活動に不足を来します。そこで
今必要な活動に使わせて頂く目的のものです。一年草のような春増え秋に収
穫して終わります。当分の間、この維持費はジャイチの活動に欠かせない費用です。
3. ジャイチ事業費
新たに大きい費用のかかる事業を計画した時にその応援費用として確保するこ
とを目的としています。
・選挙の予備(ジャイチ基金の果実、ジャイチ維持費で組まれる)では賸りさ
れない時に地域に助成に集める目的の寄附金です。
必要な時に皆様にお願いのお知らせをさせていただきます。
ジャイチでは以上の3つのような形でご寄附をお願いしております。何にご寄附下
されたのか、お教え頂きますと幸いです。もしも時に推定のない場合は基金と維
持費に半分ずつ使わせて頂きますのでご了承下さい。

総務部 0268-85-65434
担当先 番号 { 銀行振込 八十二銀行九子支店(番) 420677
口座名 財団法人日本農業研修協会の
住所 〒395-0502 長野県小県郡武石村沖456
電話 0268-85-3465 FAX 0268-85-3583
尚、金額に関しては規定がございませんので、お独りお独り自分でお決め下さ
いますようお願い申し上げます。(例えば、収入の1%を、小遣の1%を、的な考え
は如何でしょうか。)

お詫び

JAITEE一八号で、「パ
シネバント学校寄生調査
目録の日本」の文中で、
藤野先生のお名前の誤字を
修正、大学を筆頭と誤って
訂正させていただきました。

お願い

次の方への郵便物が届き
ません。新住所をご存じの
方は事務局までご連絡をお
願いします。カッコ内は旧
住所です。
根本訓正様(埼玉県与野市)
目黒孝道様(北海道日老町)

お知らせ

十月七日(土)～八日(日)
「国際協力フェスティバル二
〇〇〇」が日比谷公園で開
催されます。お出掛け下さ
い。詳細は事務局までお問
い合わせ下さい。

物故者のお知らせ

支援者の方で、当方で把
握している物故者を掲載い
たします。
ご冥福を祈りますと共に、
感謝申し上げます。
高田秀雄 九九年七月
(兵庫県神戸市)
井狩重文 九九年八月
(滋賀県野洲町)
石上敏次 二〇〇〇年一月
(神奈川県横浜氏)

編集後記

十七才の若者の事件が続
いている。
五才くらいまでの子供
は、親を慕って寄ってきて
くれる大切な時期だ。それ
以後は親も含めて大人との
接触がだんだんと減ってい
ってしまう。
核家族化と言われて久し
いが、さらに進んで個人の
集まりのような社会に向か
っている今の日本では、子
供を育てることが難しいこ
とのように思えてくる。
逆風が多すぎる。
小生も子育ての最中だが
日々暗中模索といったこと
ろか。(武石村 應)